

地濃  
会長

# 「常に感性を持つ」

## 県コンクリート診断士会

技術セミナー開く



あいさつする地濃会長

新潟県コンクリート診断士会（会長・地濃茂雄 新潟工科大学名誉教授）は28日、16年度第1回技術セミナーを新潟市立中央図書館で開き、約50人が参加した。会に先立ち、地濃会長が「共同で意見交換し、

お互いが発展していく時代。診断士として前向きな取り組みが新潟県の発展につながる」と述べ、診断士会が順調に発展していることを評価した。



診断技術について意見を交わしたセミナー

地濃会長がコーディネーターを務めるシンポジウムは、「知覚に基づく鉄

筋コンクリート構造物の老朽化に関する診断技術」と題して、5つのテーマで討論。「現場にお

ける知覚的判断」では、本田明副会長（水倉組常務取締役）と丸山聡副会長（ダイアテック代表取締役社長）が、今の若い人は書類作成が多く、現場を見れない環境と危ぐし、現場での感覚を大事にすることを強調した。「発注者、コンサルタ

### 知覚的判断で討論

ント技術者の立場からの知覚的判断においては、吉田弘副会長（ナカノアインシステム事業推進部長）と遠藤潤事務局長（クリエイトセンター常務取締役）、近藤治氏（開発技建取締役構造部統括部長）が、同じものを見ても技量によって汲み取るものが異なるなど指摘。「建築構造物の耐震診断の現状」は、仲村友夫氏（シグマ設計事務所代表取締役）が耐震補強などに関して説明した。続いて、丸山副会長が「最近の診断機器の動向」、永野修氏（サンクリエーション執行役員技術営業部長）が「塩害等補修事例」について紹介。

最後に、地濃会長は「数値化、可視化しても、どのように判断するかが鍵。常に感性を持って物事を見てほしい」と呼びかけた。

また、本田副会長は、8月30日に行われた村上市国道345号沿道線のコンクリート構造物における塩害劣化状況の現地研修会を報告。海側に面した個所の劣化が激しいことを確認し、定期的なメンテナンスや流動化コンクリート、塩害対策塗装などの対策について意見を交わした。